

# あびの文化

発行人 藤井 吉彌  
我孫子市寿 2-21-23  
04(7185) 1996

あけましておめでとうございます

会長 藤井 吉彌

これからの十年のスタートにあたり

昭和五十五年に志賀直哉邸跡保存を求める有志の活動から始まった当会は地域に根差した文化を市民の皆様とともに大切にしていこうという理念の元に着実に活動を進めてまいりました。

二十周年の昨年は当会の活動に新しい波が起ってまいりました。あびこ楽校、市民フエア等市民団体を統合した活動の展示の場で「我孫子の偉人」をテーマに取り上げ、パネルを作り、展示会で説明を重ねました。

我孫子は掘れば出てくる埋蔵文化財の他に、柳田國男、岡田武松、井上二郎(以上仮命名・布佐の三傑)、血脇守之助、嘉納治五郎、飯泉喜雄、杉村楚人冠、柳宗悦など顕在化した「人的文化財」にも大変恵まれています。

今回の展示会で見学の方の「岡田武松」という人の名前はよく聞くけど、これを見て、どんな人が初めて分かったという声文化を守ることの原点を教えてくださいました。

また定例行事である史跡文学散歩でも、多くの方の参加を頂き、地元の人々の事績を訪ねました。手賀沼公園にある大きな石碑だけでは分からない血脇守之助の業績が東京歯科大学を訪れて、よく理解出来ました。

相島芸術文化村の井上家住宅では、昨年末から未整理の古い家財や文書の整理が再開されました。その中に第十二代当主井上二郎の東京帝大土木科在学中の学習ノートがありました。これを見たとき私は万年筆で書かれた英語、日本語、数学方程式等のあまりの

見事さに衝撃を受けました。井上二郎の素晴らしい干拓事業成功のルーツはこのような地道な勉学の積み上げの上になされたことが理解できました。

また我孫子市の小学生の副読本に数人の文化勲章をもらった偉人がとりあげられています。それは別の単元で干拓の功労者として井上二郎が出ています。子供はこれ習えば井上二郎がどんな人かすぐ覚えますが、大人には情報が無く、我孫子市民の多くの人は布佐相島の関連の人々らしい認識しかありません。情報ギャップによる市民の認識を補うことも文化を守る一環として進めて参ろうと思います。

三谷名誉会長には昨年一年間に亘り、「我孫子の歴史と文化」と題し縄文以後の我孫子の通史を語って頂きました。この中にひもとくべき我孫子の文化はほとんどちりばめられています。これらに目を凝らすことにより、「文化を守る」ということが何をすることかが見えてくると思います。(当会三十年史に掲載予定)

私達の会は「文化」に興味を持つ素人の集まりです。多くの専門的知識を持った素人もいらつしやれば全くの素人もおられます。定例行事の「史跡文学散歩」、「放談くらぶ」の他に、これは「我孫子の文化だ」と思うことがあればそれを楽しまつために仲間を作り、話をする場として「プロジェクト」を設けています。文化を楽しむ素材にこれほど恵まれている地域も珍しいと思います。是非会員の皆さん同士で文化を味わい尽くす活動を進めて頂きたいと思ひます。

今年も我孫子の持つ文化を少しずつ味わい楽しむ活動に皆さんと共に邁進していききたいと思ひます。

## 新年会開催のお知らせ

今年も会員の皆様とともに左記の内容で新年会を開催したいと思います。奮ってご参加ください。

日時 1月9日(日)午後4時より

場所 「海華」(我孫子駅前千葉銀行駐車場隣)

会費 2500円

申込み 越岡(7184)2047迄(1月5日締切)

## 「川瀬巴水木版画展」について

我孫子の文化を守る会も中心的立場で協力

期間 3月18日(金)〜23日(木)

時間 午前10〜午後7時

場所 我孫子市民プラザ・ギャラリー

入場料 600円 前売り500円(会期中、本人に限り何度でも入場できる)

展示作品 川瀬巴水の木版画「手賀沼」の大半は海外流出や戦火で失われたため、永い間「幻の版画」となっていた。今回はその貴重な木版画「手賀沼」を制作する基になった巴水自身のスケッチとともに巴水の代表作品や東葛地域に関連する作品など約100余点が展示される。

イベント 会期中、「リンボウ先生」としても有名な作家・林望氏の講演や江戸木版画摺師による木版画摺りの実演、また「なんでも鑑定団」に出演している渡邊章一郎氏(渡邊木版美術画舗社長)の講演を予定。当会の三谷和夫氏、越岡禮子氏もそれぞれ鈴木昇氏(ギャラリーヌーベル代表)とのトークショーに登壇することが決まっている。当会としては協力団体のなかでも中心的立場での版画展に協力することになっている(具体的には会期中の受付、会場係り要員の提供)。

(川瀬巴水(かわせはすい))  
明治16年、東京都芝区(現港区)に糸組物(組紐)職人・庄兵衛の長男として生まれる。14歳の時、川端玉章門下で日本画を学ぶ。25歳で父親の家業を継ぐが画家になる夢を諦めきれず、27歳で鏗木清方の門を叩くが洋画家の道を進められた。しかし洋画の世界では挫折を経験し27歳の時、一度は入門を断られた鏗木清方に再度入門を申し出て許されると2年の修行を経て「巴水」の画号を与えられた。

その後、巴水は衰退した日本の浮世絵版画を復興すべく新しい浮世絵版画である新版画を確立、近代風景版画の第一人者として日本各地を旅行し旅先で写生した絵を原画とした版画作品を数多く発表。日本的な美しい風景を叙情豊かに表現し「昭和の広重」などと呼ばれる。国内よりもむしろ海外での評価が高く、葛飾北斎・歌川広重とともに「3H」と称される。

プロジェクトの活動状況報告

「小中学生に対する教育・啓発活動」

(その1)

出前講座にて「我孫子・布佐ゆかりの偉人」を講義

ふさの風まちづくり協議会(小林和彦代表から、あびこ楽校協議会を通して当会が登録している出前講座に対して出講の要請があり、去年の十月二十四日(日)午後、近隣センターふさの風で伊藤一男副会長と菅野哲哉会員が約二時間の講義を行った。

講義内容は、布佐の三傑と謳われる岡田武松(気象学者)、柳田國男(民俗学者)および井上二郎(相島新田開拓者)について、人物の概要や年譜などを説明し、彼らが少年時代どのような教育を受け、なぜこの道に進んだのか、長じてどのような業績をあげたか、また我孫子・布佐の風土とどのようにかわつたかについて話をした。因に、この三人の偉人はほぼ同年代で、学科は異なるが、いずれも東京大学で学んでおり、青少年時代からお互いに親交を結んでいたといわれる。

聴講者は約五十人で、熱心に聴いてくれる人々の姿に接し、布佐地区の住民の郷土史に対する知識欲の旺盛さを実感した。また、寄せられたアンケート調査によれば、講義の内容および資料とも好評であり、今後、この種の講座は当会から講師を出して欲しいとの要望が出されたことは喜ばしい限りである。

(報告者:伊藤一男)

(その2)

あびこ楽校出前講座・オープニングの展示・説明会に参加

あびこ楽校協議会(教育委員会生涯学習課が担当)では、生涯学習を始める人を応援し、学びの広がりをつくるなどの生涯学習機会を提供するため、かねてより「生涯学習出前講座」を実施している。この生涯学習出前講座を市民に周知するとともに利用促進のため

のイベントとして去年十二月十二日(日)、アビスタにおいて「出前講座オープニング」が行われた。

当会(担当:飯高美和子幹事)は、本協議会からの参加要請を受けて、プロジェクト「小中学生に対する教育・啓発活動」が参加し、出前講座に登録している「親子で学ぶ 我孫子ゆかりの偉人」についての展示と説明を行った。なお今回の行事は別グループの企画「偉人たちの足跡を訪ねるウォークラリー」と連携する形で行われ、ウォークラリーの案内役は当会の越岡禮子副会長が担当した。

まず予告行事として、十一月二十日から三十日まで、アビスタ第三および第四学習室前の展示用ガラスケース内にゆかりの偉人(嘉納治五郎、血脇守之助、杉村楚人冠、柳宗悦、志賀直哉、岡田武松、柳田國男、井上二郎)の説明パネルを展示した。

(写真1)

本番の十二月十二日(日)には、アビスタ第四学習室において上記偉人に関する資料や写真などを展示し、参観に訪れた小中学生や一般市民に説明した。

展示の内容は、偉人たちの生い立ちや受けた教育、なぜこの道に進んだのかを展示・説明するものであり、訪れた小中学生やその親御さん

たちにこれからの教育のあり方やそれぞれの進路について少しでも参考になることができればとの思いが込められたものであった。展示方法とし



では、約三十枚のパネルとビラおよび偉人に関する著作物を準備し、来場者に対して担当係員がそれぞれ説明を行った。(担当は伊藤一男副会長、美崎大洋副会長、飯高美和子幹事)

(写真2)

当日の来場者数は約五十名で予想を下回ったが、小学生のなかには学校の副読本を通じてゆかりの偉人のことをよく知っている者もいて、熱心に見学していた姿には感動を覚えた。

(報告者:伊藤一男)

(投稿) 我孫子風致会のこと

吉澤 淳一

本年二月十八日〜二十三日「川瀬巴水木版画展」が我孫子市民プラザで開催されます。当会も実行委員会のコアメンバーとして協力しています。その展覧会では、昭和五年の美しい手賀沼の作品を鑑賞する事が出来ます。その手賀沼が今日在るを思う時、杉村楚人冠が立ち上げた「手賀沼保勝会」の、干拓阻止の活動に心を打たれます。手賀沼を愛するその思いはやがて「我孫子風致会」に引き継がれたと聞いております。私は「我孫子の景観を育てる会」にも入会して、その会では「我孫子風致会」について、何人かの方々にお話をうかがっているところです。本件についておわかりの方、或いは知っているような方をご紹介いただける方がいらつしやいましたら、ご一報ください。

電話 04(7184)28056





## 第100回史跡文学散歩（報告）

## 「郷土の」三偉人ゆかりの史跡を訪ねる

田村 操

11月25日9時、我孫子駅改札に集合。当日は16名の参加を得て曇り空の中、伊藤さんの案内で出発する。JR水道橋東口の改札口を出て、白山通りを講道館の建物に向かう。途中、藤田東湖（水戸藩の政治家、水戸学藤田派の学者）の案内板があり、東湖が安政の大地震の際、母親を守るため自ら梁の下敷きとなつて圧死した話を聞く。

## ① 講道館（嘉納治五郎ゆかりの地）

正面玄関には柔道の創始者であり、講道館の創設者でもある嘉納治五郎の大きなかつ立派な銅像があつた。戦後建てなおされたものという。展示室には講道館創設以来の写真や、継ぎ接ぎしたり丹念に補修した明治二十年代の柔道衣や勝海舟が揮毛したときとされる額など、貴重な記念の品が展示されていました。また8階から広い稽古道場も覗くことができました。生憎、道場には人が見えず、稽古風景は見られませんでした。柔道人口についても今ではフランスなどに越されてしまつて残念です。

## ② 東京歯科大学（血脇守之助ゆかりの地）

東京歯科水道橋病院（旧歯科大学）へ。正面玄関の外壁には、血脇守之助と野口英世が並んだ大きな写真が飾られていました。

守之助は我孫子生まれで我孫子尋常小学校に入学、卒業。野口英世が守之助を頼つて上京すると英世の才能を認めた守之助はその後にも面倒をみて、英世の留学費用を出したばかりでなく物心両面の援助者でもありました。

## ③ 気象庁（岡田武松ゆかりの地）

次の目的地・気象庁に向かう途中、野球発祥の地、震災イチョウ、平川御門などのお話も興味深く聞きました。

気象庁ではまず社員食堂で昼食を済ませ、その後女性職員の案内でガラス越しに大型コンピュータに映し

出された雲の動き・火山・地震の監視などについて詳しい説明がありましたが、常に予報官同士が議論し合うた上で、それをもとにした予報を出されるとのことでした。我孫子市は気象庁にゆかりの深い岡田武松先生の出身地です。中央気象台長を務め、文化勲章を受章されました。

この後、気象科学館を見学して2時に現地解散、帰宅。万歩計一万余歩でした。

案内図のきの詳細なガイドやエピソードつきの説明が大変分かりやすく有意義な一日でした。



## あじこだより 48号

## 相島芸術文化村への想い

井上 千鶴子

井上家の保存を模索していた20年前から18年の年月を要しましたが、井上家住宅が国の文化財として登録されたことで、将来に向けての保存の可能性が高くなってまいりました。

顧みまずと我孫子に通うようになった当座、私は途方

もない塵のような宝の山の前に立ちすくんでいました。しかし余計な事を考えず目の前の物をただがむしやりに片付け始めました。最初に手をつけた場所は、今陶芸の窯が同居する厨房と釜や薪が散乱していた釜屋でした。

結婚当初から私は子育てが終わった後には、遺された墓山や干拓の田園の景観、畑、千間堤などのランドスケープと点在する歴史スポットを一体として歴史を語れる相島芸術文化村の中に保存したいと願っていました。

整理と修復、資金を生む施設づくり、同時に様々な文化企画を打ち出し保存活動を始めて15年経った頃、朽ちるのを待つしかない諦めかけていた江戸倉が親切な大工さんのお陰で応急修理され、それから井上家の保存を真剣に考えるようになりました。

保存を実現するには人材確保と資金調達が一番の課題でした。資金がないと優秀な人材が集まりません。土日出勤可能な主婦や肉体労働をしてくれる男性を探すのは大変でしたが、多方面の専門分野の方々の支援を沢山頂きました。歴史を積み重ねた家の徳を深く感じ、かつ皆様のご厚意に感謝しております。

それでも個人での文化財の保存活動には経済的にも肉体的にも限界を感じ、5年ほど前から千葉県やJRとの関係を頼みに活動の輪を広げましたが、それは反対に負担金や法人化という経済的負担が増すことになりました。

最終的に相島の保存は、20年間の運営で積み重ねた実績、費やした資金、そして山や水神や干拓の歴史遺産を丸ごと寄附することであると悟ったのです。

釜屋の片隅から始めた整理もほぼ終わり、これからは相島の森、井上家住宅、水神ギヤラー用池など、江戸干拓の歴史を丸ごと語れる干拓ミュージアムに夢を託し、地域づくりの中、活気溢れる若者たちの仕事場づくりが私の今の夢です。

文化都市我孫子市のさらなる発展には歴史研究者の方々の地道な努力や文化を守っていくという市民の力が必要です。これらの力こそが貴重な文化遺産といえます。これからも関係する方々の活躍を願って止みませ

湖畔六句 「湖畔吟」三十二人一句より

佐藤昭市選

マスクして鼻の眼となりけり

湯下 螢二

浮彫の竜勢ひ立つ寒九晴

佐伯 星子

寒蛭いたらぬ妻で通しけり

小俣たか子

遠くより見ゆるわが家の花辛夷

新保ひとよ

一本杉枯野に長き影を曳く

光成 高志

青空や眩しきばかり懸大根

佐藤 昭市

第101回史跡文学散歩

「旧湖北村の歴史を訪ねてー中里、中峠を歩く」

昭和22年、周辺の9ヶ村を合併して湖北村が誕生。我孫子町を経て昭和45年我孫子市となりました。

湖北駅北口から線路沿いに歩き、昔の面影を残す星野家門や古木、湖北出身の著名な学者・中野治房の生家を見て、中里通りを歩き、天照神社。成田街道を渡り、中峠周辺にある史跡や自然を見ながら散歩します。路傍のさまざまな庚申塔などから、ここに住む人々の暮らしを少し顧みながら、中世の芝原城址、古刹の龍泉寺、法岩寺、古利根沼など起伏のある里山を散策します。

1. 日時 3月27日(日)9時～12時(解散予定)

(集合時間)9時(集合場所)成田線湖北駅改札口

2. コース 北向薬師堂ー中野治房宅ー庚申堂ー

天照神社ー中峠庚申塔群ー法岩寺ー古利根沼

一波除不動尊ー芝原城址ー順道塚ー亀田谷防災

公園ー龍泉寺ー湖北駅(小雨決行)

講師・ガイド 田中由紀氏

参加費 会員 無料、非会員 500円

申し込み TEL&FAX (七二八四)二〇四七

越岡まで(締め切り) 3月20日(日)

今後の行事予定

□ 新年会

日時 1月9日(日)午後4時

場所 「海華」(詳細は1面参照)

□ 「放談くわん」

日時 2月6日(日)14時～16時

会場 アビスタ、第4会議室(定員25人)

講師 井上千鶴子氏

「相島芸術文化村の想い」

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

日時 4月3日(日)14時～16時

会場 未定

講師 福嶋正和氏

「明治時代の先進的な女医」

□ 川瀬巴水木版画展

日時 3月18日(金)～23日(水)

場所 我孫子市民ギャラリー

□ プロジェクト開催予定

「我孫子の歴史と文化を楽しむ」

日時 2月5日(土)14時～16時

場所 東高野山自治会館ー自由参加歓迎ー

問合せ先 三谷(七一八三)一〇七七

「関東の建築探訪」

日時 3月24日(木)

場所 未定

今年度会費(二千円)納入のお願い(未納の方)

本会はひとえに会員皆様方の会費によって運営されています。郵便振替口座(00190-3-13547)「我孫子の文化を守る会 伊藤一男」宛お振込みください。

当会の最近の動き(報告、予定)

散歩部会

11月25日、史跡散歩「三偉人ゆかりの史跡を訪ね

る」参加者 16名

手賀沼部会

10月2日(土) 手賀沼流域フォーラム「木下遊覧船

試乗会

10月9日(土) 同講演会「コウノトリと共生するま

ちづくり」於、けやきプラザホール

10月24日(日) 出前講座にて「我孫子・布佐ゆかり

の偉人」を講義。於、近隣センターふさの風

11月19日(金) 美手連主催「印西市北総里山研修会」

12月5日(日) ふれあい清掃(統一クリーンデー)に

参加(我孫子市側約500名)

12月12日(日)「出前講座オープンデー」に展示開

催。於、アビスタ

研修部会

10月3日、放談くらぶ「40年前の天王台北側の様

子と快速電車の10年かけた住民運動」

12月5日、放談くらぶ「布佐の鎌倉物語」その後

の展開」

その他

◎10月26日、市長との懇談会に参加。

◎11月11日、12月17日、「川瀬巴水展」実行委員

会に出席。

◎「市民活動フェア2011」は6月18、19日に予定。

前回まで2月末、または3月初めに開催されてい

た「市民活動フェア」は来年度は6月に開催されるこ

とになった。なお6月開催のためのプレフォーラムを

2月19日(土)9時～17時、アビスタにて開催する。

当日は各団体が統一テーマに沿った企画案を発表、

PRする予定。

入会会員紹介 小川芳子様

編集後記 昨年の干支は寅。猛々しい虎のように社会的にも大

きな出来事が次々と起こりました。当会については創立30年

という節目を迎え、過去の10年を振り返る機会をもちまし

た。今年も折衷と落ち着いた説得の時期と東洋占星術で

は出ています。政治が落ち着き経済も安定することを期待し

ます。文化を守る会でも郷土我孫子にどのような貢献できる

のか、じっくり落ち着いて考える年にならばと思います。(美崎)